

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
(平成18年12月解析分)

1 疾患別定点情報

定点把握(週報)五類感染症 平成18年11月分(平成18年10月30日~12月3日:5週間分)

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	158	0.27	0.08	↑	12	ヘルパンギーナ	13	0.04	0.06	⇨
2	RSウイルス感染症	74	0.21	-	↑	13	麻疹	1	0.00	0.00	
3	咽頭結膜熱	162	0.45	0.18	⇨	14	流行性耳下腺炎	70	0.19	1.13	⇨
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	544	1.51	0.96	⇨	15	急性出血性結膜炎	5	0.05	0.02	
5	感染性胃腸炎	6,081	16.89	6.41	↑	16	流行性角結膜炎	60	0.63	1.00	⇨
6	水痘	385	1.07	1.56	↑	17	細菌性髄膜炎	3	0.03	0.02	
7	手足口病	13	0.04	0.35	⇨	18	無菌性髄膜炎	4	0.04	0.09	
8	伝染性紅斑	49	0.14	0.15	⇨	19	マイコプラズマ肺炎	36	0.34	0.24	⇨
9	突発性発しん	180	0.50	0.59	⇨	20	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	
10	百日咳	12	0.03	0.02	⇨	21	成人麻疹	0	0.00	0.00	
11	風しん	1	0.00	0.01		「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)					

定点把握(月報)五類感染症 平成18年11月分(11月1日~11月30日)

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
22	性器クラミジア感染症	40	1.74	1.86	⇨	26	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	110	5.24	5.16	⇨
23	性器ヘルペスウイルス感染症	16	0.70	0.44	⇨	27	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	28	1.33	3.01	⇨
24	尖圭コンジローマ	16	0.70	0.54	⇨	28	薬剤耐性緑膿菌感染症	6	0.29	0.42	
25	淋菌感染症	27	1.17	0.83	⇨	「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)					

インフルエンザ 急増(10月4件 11月158件) 感染性胃腸炎 急増(10月2117件 11月6081件)
RSウイルス感染症 急増(10月23件 11月74件) 水痘 急増(10月180件 11月385件)

急増減		増減		微増減		横ばい
↑	↓	⇨	⇩	⇨	⇩	⇨
前月と比較しておおむね1:2以上の増減		前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減		前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減		殆ど増減なし(発生件数少数のものを含む)

定点について
定点情報は、定点把握対象の五類感染症(週報対象21疾患、月報対象7疾患)について、県内178の定点医療機関からの報告を集計して作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD 定点	基幹定点	合計
対象疾患 No.	1	1~14	15, 16	22~25	17~21, 26~28	
定点数	43	72	19	23	21	178

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

一類感染症	発生なし
二類感染症	発生なし
三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症 2件 O157 2件 尾三地域保健所(1), 備北地域保健所(1)
四類感染症	6件 つつが虫病 4件 広島市保健所(1), 広島地域保健所(2), 芸北地域保健所(1) A型肝炎 1件 広島市保健所 レジオネラ症 1件 呉市保健所
全数把握五類感染症	3件 急性脳炎 1件 広島市保健所 ウイルス性肝炎(B型) 2件 広島市保健所(1), 呉市保健所(1)

3 一般情報

(1) 感染性胃腸炎の多発について

平成18年第39週(9月25日～10月1日)頃から、感染性胃腸炎の報告が、過去7年間のデータと比較して多発しています。第42週(10月16日～22日)頃から急増し、第47週(11月20日～26日)に一旦ピークを示しています。

ノロウイルスは冬季の感染性胃腸炎の主要な病原体といわれていますが、報告数の増加にあわせるように、社会福祉施設等において、ノロウイルスによる集団感染事例が多数報告されています。例年、感染症胃腸炎が多発する時期は3月頃まで続くので、引き続き注意が必要な感染症です。

ノロウイルスによる感染性胃腸炎

感染性胃腸炎はウイルス、細菌、寄生虫など多くの病原体が原因となります。冬場になるとノロウイルスやロタウイルスなどのウイルスが多く検出されます。

ノロウイルスは、感染力が非常に強いウイルスで、少量のウイルスで感染し、通常の消毒方法では、ウイルスが不活化しないため、社会福祉施設等の集団生活を営む施設内で、感染事例が発生した場合、吐物等の不適切な処理や従事者の衛生管理の徹底を行わないと、施設内に感染がまん延することがあります。

症状

ノロウイルスに感染すると1～2日の潜伏期間を経て、吐気、嘔吐、下痢を主な症状として発病します。通常、これらの症状が1～2日続いた後治癒し、後遺症はありません。感染しても症状がでない場合や、軽い風邪のような症状の場合もあります。

体力の弱い乳幼児、高齢者は、脱水症状を起こしたり、体力を消耗しないように、水分と栄養の補給を十分に行いましょう。

ウイルスは、患者が回復しても1週間程度、長い場合は1ヶ月程度、便の中に排泄されます。

感染経路

ほとんどが経口感染で、次のような感染経路が考えられます。

- ・ 汚染されていた食品(貝類等)を生または十分な加熱をしないで食べた場合
- ・ 食品取扱者が感染しており、その人を介して汚染した食品を食べた場合
- ・ 患者の便や吐物から人の手などを介して二次感染した場合
- ・ 家庭や共同生活施設などヒト同士の接触する機会が多いところで、ヒトからヒトへ飛沫感染等直接感染する場合
- ・ ノロウイルスに汚染された井戸水や簡易水道を消毒不十分で摂取した場合

感染予防対策

- ・ 患者の便や吐物には多量のウイルスが排出されるので、次のことに注意しましょう。
食事の前やトイレの後などには、必ず手を洗いましょう。
下痢や嘔吐等の症状がある方は、食品を直接取り扱う作業をしないようにしましょう。
胃腸炎患者に接する方は、患者の便や吐物を適切に処理し、感染を広げないようにしましょう。
- ・ 特に、子どもやお年寄りなど抵抗力の弱い方は、加熱が必要な食品は中心部までしっかり加熱して食べましょう。また、調理器具等は使用後に洗浄、殺菌しましょう。

(2) インフルエンザの予防接種を受けましょう

例年は、11月下旬から12月上旬頃にインフルエンザの流行がはじまり、1月下旬から2月上旬をピークに減少していきます。インフルエンザは毎年人口の約1割の人が感染するといわれ、特に高齢者や幼児は重症化することがあるといわれています。

インフルエンザの予防接種は、予防接種を受けてから免疫力が上昇するまで2週間程度かかり、予防接種の効果は5ヶ月程度持続しますので、流行に備え早めに受けましょう。

各医療機関で、インフルエンザの予防接種が実施されていますので、事前に電話等で予約を行うなどして受診してください。

<守って防いでインフルエンザ～ワクチン、手洗い、マスク、うがい～>

(今冬のインフルエンザ総合対策について 標語)